

ご挨拶

日頃より鳥取大学附属小学校の教育・研究にご支援・ご協力を賜り、ありがとうございます。国立大学の附属学校園は、地域のモデル校として先進的な教育の実践と研究に取り組み、それらの成果を地域に還元して、これまでその役割を果たして参りました。近年は学校を取り巻く環境も大きく変化し、ICTの導入などへの対応を求められています。また働き方改革に象徴されるように、教職員の業務多忙化の度合いも放置できない状況になっています。近年はこうした課題に先んじて積極的に取り組み、存在価値を高める努力も求められています。

本年度は、とりわけ新型コロナウイルス感染症対策に翻弄された一年となりました。GIGAスクール構想の実施前倒しもあり、全国的に一気にICTを活用した教育が推進されました。

県内では比較的感染者数が少なく、学校の休校期間も短かったためICT活用の機会が多くありませんでした。これまで通りの教育ができていたことで、気が付いたら「ICT活用の一周遅れ」とならないよう、日ごろからの活用方策も新たな研究課題となりました。

研究と表裏一体とも言える教育の面では地域のモデル校としての役割を果たすべく、その成果を還元してきました。それに連なるものとして、知財創造教育に昨年度より取り組んでいます。限られた時間のなかで教職員が取り組んだそれぞれの研究テーマにおいて、どれだけ研究目的に迫ることができているのか、本書の各論稿をご高覧いただき、忌憚のない御指導・御鞭撻を賜われれば幸いです。

本年度の取組の成果を公表し、ご批判を仰ぐべく、令和2年10月31日(土)にオンラインで授業実践の動画を公開し、メールを使って質疑を行う形で研究発表大会を開催しました。ご参加いただきました多くの皆様には、改めて御礼申し上げます。遠隔地からの参加は難しい本校でも、オンライン開催とすることで例年よりも多くの参加を得たことは想定外でした。今後の参考にしたいと思います。本年度の取組では、プログラミング教育で茨城大学の小林祐紀先生に御指導いただきました。また鳥取大学の共同研究者の先生方には、年間を通じてご助言・ご支援を頂戴しました。末筆ながら、ご協力いただきました先生方のご厚情に感謝申し上げますとともに、引き続き本校の教育・研究の発展にご支援を頂戴したく、宜しくお願い申し上げます。

令和3年3月
鳥取大学附属小学校
校長 山下博樹